



## 柴田 秀夫 (しばた ひでお)

河北町名誉町民 平成 7 年 2 月 22 日顕彰

明治 36 年 (1903) に生まれ、山形高等学校理科乙類卒業を経て、昭和 3 年 (1928)、東京帝国大学医学部卒業後すぐに同伝染病研究所に入所、同 10 年医学博士となりました。帰郷後、山形保健所初代所長に就任し、谷地町(現河北町)に病院を設置したいとの一念から、昭和 22 年、日本医療団谷地病院を発足させ初代院長となりました。この谷地病院を県内最初の県立病院に昇格させるため尽力し、念願かなって昭和 24 年、県立谷地病院が発足、初代院長として医療に専念しました。「院長先生」と親しまれた院長時代は勿論、退任後も嘱託医として医療保健の向上に尽くしました。長年に渡り結核の権威として君臨し、生命を授かった若者は数知れません。氏は河北病院の産みの親であると同時に、河北町民の生命の親でありました。さらに、学校医として 36 年の長きにわたり児童の健康管理にあたり、成人病の予防対策に努められた成果もまた高く評価されているところです。

氏は俳号を「冬野」といい、奥様の名前に由来するといひます。昭和 24 年、谷地病院で入院患者の心の衛生と趣味の向上のため俳句を奨励しました。やがて、本格的な句作を指導し、「ひまわり句会」を結成し主宰となりました。選者に名和三幹竹を迎え、細谷鳩舎・柴田冬野・鈴木木槿・細谷紅児・佐藤木鶏などが月刊俳誌『ひまわり』の編集にあたり、県内有力な俳誌に成長しました。地方俳壇の指導育成にあたった功績が認められ、県教育功労者表彰を授賞しました。